

令和3年度 大学院医学薬学府学位記伝達式 学府長式辞

修了生の皆さん、おめでとうございます。研鑽を積み立派な学位論文を纏められた皆さんのご努力に敬意を表するとともに、皆さんとご家族、そして関係者の方々へ医学薬学府の教職員を代表して心から祝福いたします。このめでたい機会に、医学薬学府長として、皆さんの門出を祝い、お話したいと思えます。

学生が企画する「高い教養を涵養する特論」、「卓越教養特論」という科目をご存知の方も多いたと思います。その中で、7年前に富山和彦さんが講演されました。富山さんは、産業再生機構のトップ、日本航空の再建などを担当され、内閣府の委員会でもご活躍ですが、千葉大での講演の時、乱世の時代と表現されました。その時はピンと来なかった方も多いたと思います。しかし、新型コロナウイルスやロシアのウクライナ侵攻など、私達は時代の大きな渦動の中にいます。社会が大きく変わる時、お金が紙クズ同然になった例は枚挙にいとまがありません。このような時、自分自身の中に、他に奪われる事のない力を持つことは重要です。本日、博士号という世界に通用する財産を得られた皆さんは、先見の明があったという事と思えます。修士号も誇れる財産です。皆さんが取られた学位を手を、世界に大きく羽ばたいて欲しいと思えます。

この場には、直接もしくは間接的に医療に関わる方が多いたと思います。昔話になりますが、私が学生の頃、がんウイルスの研究を出発点として、がんを起こす遺伝子が次々に発見されました。そして、その元となる遺伝子プロトオンコジーンは、私達自身が持っていることがわかりました。これらを最初に発見した研究者は、勿論、ノーベル賞を受賞しましたが、かなりショッキングでした。ウイルスのように外から体に入って来るものであれば、退治する手段は作れるでしょう。しかし、自分が持つタンパク質とどう戦えば良いのか、がんを治すことはできないのではと思ったりしました。しかし、ご存知の通り、日進月歩の勢いで、治せるガンは増えています。新型コロナウイルスも、人類が mRNA ワクチンを手にしていなければ、遥かに甚大な被害となっていたことでしょう。

研究成果の1つ1つは小さいものであっても、その積み重ねの上で、私達は多くの困難を克服してきました。地道な、しかし確固たる研究成果を基に、今後も多くの病気を治し、人類の健康に貢献できることは確実です。このことを忘れずに、サイエンスの土台にしっかり立脚した上で、一步一步着実に歩んで欲しいと思えます。しかし、人生は平坦ではありません。難しい局面に直面することもあるでしょう。そのような時は、今日の気持ちを思い起こし、目先でなく10歩先、20歩先を見通して進んでください。また、5年先、10年先の未来に目を向けて欲しいと願っています。必ずや素晴らしい未来が待っています。いや、優秀な皆さんには、輝かしい未来を創る使命があります。

皆さんが世界の様々な場で大いに活躍されることを心より祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

2022年3月25日

大学院医学薬学府長 斎藤 哲一郎